

令和5年度 高朋高等学校経営計画

1 学校教育目標

建学の精神「文武不岐」に則り、優れた知性と豊かな情操と健全な心身を持ち、民主的な社会の発展に貢献できる自主的で創造性に富む人間を育成する。

教育方針は、

- (1) 個人の能力と個性を大切にする学習指導
- (2) 豊かな人間性と友情を培い、徳性を磨く生活指導
- (3) 己を見つめ、己に打ち克ち、集中力を育てる座禅指導と心の修養
- (4) 情報化社会に即応できる実践的情報教育
- (5) 国際感覚と広い視野を身に付ける国際理解・国際交流教育 とする。

2 学校の特徴

昭和36年に北日本電波高校として開校し、以来、校名や学科、課程改編を経て、昭和53年に全日制普通科高校となる。そして、平成11年に開設した単位制課程で、①少人数学級での習熟度別学習 ②科目選択で授業を選べるシステム ③一人一人の進路に応じたガイダンス ④キャリアカウンセラーによる徹底した就職支援 ⑤克己心と集中力を育てる座禅指導とこころの教育⑥海外研修旅行を通じた国際理解・国際交流教育など、特色ある教育実践を行っている。

「文と武は分けることができないものである」という「文武不岐」を建学の精神とし、生徒信条である「真理」「友愛」「徳性」の育成を目指して教育活動を行っている。

生徒会活動では、毎朝の挨拶運動をはじめ、通学路及び海岸清掃、「富山マラソン」運営のボランティア活動に自主的に取り組んでいる。

部活動では、春の全国選抜大会に4回、夏の全国高校総体に6回出場の剣道部、110mハードルやハンマー投げで全国高校総体に出場した陸上競技部、平成29年の第99回全国高校野球選手権富山大会で準優勝した硬式野球部が実績を残している。文化部においても、軽音楽部や写真部、将棋部、パソコン部等が楽しく活動し、なかでも美術部は、令和4年度「第31回まんが甲子園」（全国高等学校まんが選手権大会）に出場し、「高知県市町村進行協会賞」を受賞した。これらの部活動を通して、学校全体の雰囲気が良く、活気をもたらしている。

3 学校の現状と課題

本校は、小規模校の強みを生かし、本校ならではの魅力と活力のある学校づくりに努めている。本校を選んで入学してきた生徒たちが、希望をもって学び、いろいろな場面で勇気を出して、「新たな一歩」を踏み出し、数多くの経験を積み重ねることにより、自分に自信をもち卒業していけるよう、全教職員が一丸となってサポートしている。

本校には、進学や就職に向けて、自らの目標を達成しようと頑張り続けている生徒、基礎学力がやや乏しいが日々努力を続けている生徒、不登校を経験し本校入学を機に自分を変えようとチャレンジしている生徒等がいる。一方で、様々な事情で、入学当初「この高校で頑張ろう」というモチベーションが長続きしない生徒も見られる。こういう生徒たちを支援するために、SSWや特支コと連携し、組織的な対応に努めている。

4 本年度の重点教育目標

- (1) 基礎学力を向上させる学習指導 → 「教育」と「学習」の相乗効果を図る。
- (2) 学校生活を充実させる生徒指導 → 自己指導能力の育成を図る。
- (3) 目標を明確にさせる進路指導 → よりよい生き方の実践を図る。

5 本年度の重点課題（アクションプラン）

- (1) 教科指導・・・学習環境を整えるとともに基本的な学習習慣を定着させ、学習意欲の喚起、基礎学力の向上を図る。

- (2) 生徒指導・・・「心に響く生徒指導」に心がけ、迅速・丁寧で粘り強い指導及び組織的な指導により、自己指導能力を身に付けさせる。
- (3) 進路指導・・・各学年のガイダンス指導を充実させ、生徒一人一人の能力・適性を生かして、自己実現に向けた適切な指導を行う。
- (4) 教育相談・・・生徒や保護者の不安や悩みを共感的に受け止め、心に寄り添いながら、チームで粘り強く課題解決に努める。
- (5) 特別活動・・・学級・学年活動や生徒会活動等を通して、主体的・実践的な態度を育成するとともに積極的に参加するよう支援する。
- (6) 道徳教育・・・全教育活動を通して、人権意識を高め、心豊かでたくましく生きようとする道徳性を育成するとともに日常的な道徳実践につなげる。
- (7) 健康・安全指導・・・自他の生命を尊重し、心身ともに健康で、安全な生活を送る態度を育成する。
- (8) 環境教育・・・環境について、一人一人が清掃活動や整理整頓などの身の回りのできることから、主体的に取り組む態度や能力を育成する。
- (9) 危機管理・・・危機管理体制を強化し、自然災害や不審者侵入、問題行動、事故等の発生時には、組織として、迅速で適切な対応を行う。
- (10) 学年運営・・・学年主任のリーダーシップの下、自分の良さを伸ばし、可能性を広げようとする生徒を育てる学年づくりに努める。
- (11) 生徒募集・・・志願者、入学者の増員を図る。

6 アクションプラン (具体的な目標と方策)

項目		目標及び方策	
1	教科指導	目標	学習環境を整えるとともに基本的な学習習慣を定着させ、学習意欲の喚起、基礎学力の向上を図る。
		方策	<p> 考査、再評価以外の期間であっても、成績が振るわない生徒、欠席が多くなっている生徒に対して課題に取り組む機会を設け、学習に取り組ませることによって、再評価科目を減少させる。 ICT機器を段階的に活用するなどして、分かりやすい授業の展開を実施していく。 </p>
2	生徒指導	目標	「心に響く生徒指導」に心がけ、迅速・丁寧で粘り強い指導及び組織的な指導により、自己指導能力を身に付けさせる。
		方策	<p> 基本的生活習慣をしっかりさせるのと学年と家庭との連携を密にししながら、遅刻・欠席を少なくし、規範意識を持たせるように粘り強く指導する。 </p>
3	進路指導	目標	各学年のガイダンス指導を充実させ、生徒一人一人の能力・適性を生かして、自己実現に向けた適切な指導を行う。
		方策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査の実施。(年3回) ・進路講習会(年2回)、学校・企業見学会の実施(年1回)、先輩から学ぶ会などの実施。 ・キャリアパスポートなどの記入を通じた振り返りから自己の資質や経験値を理解させる。
4	教育相談	目標	生徒や保護者の不安や悩みを共感的に受け止め、心に寄り添いながら、チームで粘り強く課題解決に努める。
		方策	<p> 卒業後の進路を見据えながら、生徒一人一人に寄り添い、保護者や関係機関との連携を密にし、生徒自身が前に進みたいと感じられるよう、すべての教員が丁寧な対応を心がける。 すべての教員が個の特性(障がいや病気等)を理解し、適切な対応ができるよう、専門家から学び、対応力をつけるためにも研修会を実施する。 </p>

5	特別活動	目標	学級、学年活動や生徒会活動を通して、主体的・実践的な態度を育成するとともに積極的に参加するよう支援する。
		方策	① 生徒会活動や学校行事、部活動への積極的な参加を促すために学年活動や学級活動の中で役割を与え、主体的に活動する態度を育てる。 ② 専門委員会の活動について、日常的活動を活性化する。 ③ 学校行事や生徒会活動を通し、人との関わりを深め、互いに尊重し合える場面を多く設定する。
6	道徳教育	目標	全教育活動を通して、人権意識を高め、心豊かでたくましく生きようとする道徳性を育成するとともに日常的な道徳実践につなげる。
		方策	① 行事ごとに振り返りの場を設け、自己の在り方について自覚を深める。 ② 自分ならどうするかを考える習慣を身に付け、主体的に日常的な道徳実践に生かせるような手立てを施す。 ③ 友達の思いや考えを聞き、多様な考えに触れる場面を設定する。 ④ 「人は、誰もがよりよくいきたいと願っている」という人間観に立ち、人権意識を高められるよう、生徒に寄り添いながら指導を行う。
7	健康・安全指導	目標	自他の生命を尊重し、心身ともに健康で、安全な生活を送る態度を育成する。
		方策	① 新型コロナウイルス感染症は5類になったが、感染症の発生状況を把握し、教職員で共通理解しながら予防対策を継続する。 ② 個々の問題の背景を探り、支援できるよう関係者で連携し対応する。生徒が自分の健康問題に気づき、改善していけるよう手立てを工夫し働きかける。
項目		目標及び方策	
8	環境教育	目標	環境について、一人一人が清掃活動や整理整頓などの身の回りのことから、主体的に取り組む態度や能力を育成する。
		方策	日々の先生方の指導が、実を結んでいる現状を尚一層、継続していくことが今後大きな結果に繋がっていく。ただ一部の生徒が、清掃活動等に取り組めていないことをふまえ、教員、生徒が協力していく意識を育てることを目標に日々の呼びかけ、清掃後の確認を粘り強く続けていくことが大きな課題である。
9	危機管理	目標	危機管理体制を強化し、自然災害や不審者侵入、問題行動、事故等の発生時には、組織として、迅速、適切な対応を行う。
		方策	① 問題についての情報共有を図る際には、関係する職員に情報が行き渡るように的確な「報連相」を行う。 ② 万が一のことを想定した指導や未然防止のための対応が日常から行えるよう、事後の考察や事例研修等を通して、職員個々の能力を高める。
	学年運営	目標	学年主任のリーダーシップの下、自分の良さを伸ばし可能性を広げようとする生徒を育てる学年づくりに努める。
	1学年運営	目標	基本的な生活習慣を身に付け、学習活動や集団生活を安心して送れるよう支援する。
		方策	① 生徒の出席状況や学習状況等を把握し、一人一人との面談を活用しながら生徒と対話する。また、家庭との連携を密にする。 ② 授業に集中して取り組めるよう、学習環境を整える。 ③ 休み時間等にこまめな巡視や見守りを行い、時間を守る意識付けをさせ、規範意識の向上を図る。 ④ 社旗に出て働くことを意識させ、挨拶や言葉遣いを正しくさせる。
		目標	自立を目指し、社会への旅立ちの足場を固める

10	2学年 運営	方策	<ul style="list-style-type: none"> ① 個としても集団としても過ごしやすい環境を意識させるための工夫をする。 ② 自らの目標を設定させ、その目標を達成するための計画が立てられるよう、こまめな情報提供を行う。 ③ 学級や生徒会活動、部活動を通して、社会の中で自らの役割を果たすための訓練を行う。
	3学年 運営	目標	進路目標を達成する。
方策		<ul style="list-style-type: none"> ① 常に整理・整頓を心がけ使用場所の環境を整える。 ② 進学情報、就職活動の情報などを教室に掲示し、意欲がわくようにする。 ③ キャリアカウンセラーとの情報交換、連携を密にする。 ④ ホームルームや放課後などの時間を利用し、個々の生徒との面談をきめ細やかに行う。 	
11	生徒 募集	目標	志願者、入学者の増員を図る。
		方策	<ul style="list-style-type: none"> ① 中学校訪問では、本校に在籍する生徒の様子を具体的に伝えることで中学校の先生方に本校の取り組みを正しく理解してもらえるように努める。 ② 学校見学、個別相談会の実施方法について、中学校3年生がより参加しやすい方法を検討していく。学校ホームページへの情報掲載、活用方法を考える。 ③ 昨年度から実施したネット出願に対して、受験生が不安なく出願できるように、中学校の先生方に周知、徹底を図る。 ④ 県外の生徒募集を積極的に行う。